# Ⅰ　被災者ニーズヒアリングと現地支援者の出会い

2012 年の支援のあり方を巡り、まず、１月 11，12 日、福島・宮城県の「仮設住宅」３箇所を訪問し、自治会長や役員から、ヒアリング、**「心のケア」**と**「生活必需品支援」**にあることが判明。さらに、宮城県大崎市と福島県福島市で「個人」で支援を継続している
ボランティアと接触、以後、今日に至るまで、連携している。

## 【当時のレポート抜粋―宮城県支援者との出会い】

１月１１日（水）

**６時　同行古賀氏と駅待ち合わせ**

八王子から５時出のＫさんを北朝霞駅にて、ピックアップし、一路、福島へ。

**９時半　東北道二本松インターで下車**

昨年１２月より、福島県から東北６県の高速道路は無料。これまでの支援では、全て料金を取られたのが、ようやく恩典に浴する（といっても、栃木県までは、有料）。那須からは、粉雪降り始め、二本松インターで降りる。（昨年秋までは、原町へは、飯舘村を通過できず、２０ｋｍ先の福島西 IC まで行き、細く曲がりくねった山道で相馬へ抜け、南下する遠回りコースだった。）

雪は積もり、冬タイヤ・４WD の威力大。途中、山の中の川俣村役場前の道の駅で朝食。
偶然、飯舘村の社会福祉協議会の事務局があり、聞く。

**１０時過ぎ　福島県　飯舘村通過**

川俣村から山越えすると、「牛の絵の看板」の飯舘村。外気は零度。車の換気を止め、暖房を我慢。スピードを上げ、住宅やスーパー・店舗が並ぶ普通の、しかし、人影ひとつ無い、村を通過。

**１１時　　前職の損保会社福島支店原町支社　訪問**

県内全域管轄時の元部下らと１０年ぶりの再会。同支社は、原発避難で、支社ごと郡山避難、社宅住まい。１０月に戻り、営業再開、の苦労話や、原発の影響、ヒアリング。

## １３時半　南相馬市鹿島区　小池長沼（西）仮設住宅　訪問

畑の中の木造の仮設住宅２００世帯。ペット動物を飼える区域と、飼えない区域とに分離し、楽自治会長（元行政士）ら役員５名（女性４名）よりヒアリング。

### （１）仮設住宅の現状

・津波・原発被害の避難者、５地域の住民が入居。数年前に町村合併した市なので、まだ合併でのインフラ整備が出来ていない中、津波・原発対応の行政の想定・避難訓練が甘すぎ、その後の対応も含め、合併は何だったのかと、怒りを覚える。被災直後は、ヤミクモに遠くへ逃げたり、地域が孤立したり、風呂も１ヶ月入れない等、苦労した。

・現在は、放射能からの避難で、他県や他地域に移る人も多く、仮設には幼児・子供が少ない。結果、高齢者が多い。知る人も限られ、部屋に閉じこもり状態。また、仮設は狭く、これまでの家では、３世帯同居、でも、個室で隔離されていたのが、顔を突きつけながらの生活で、息苦しく、不協和音・ストレスも生じて来る。不満話の聞き手、趣味のサークルや、イベントなどで外に出てきて、お互いの顔を見る場を作る必要がある。

### （２）雇用

・若い人の雇用は、他県と違い、緊急避難で手つかず、の原発近くの海岸線でのガレキ処理や、広域な除染作業、東電関連の廃炉作業などは暫くは見込めるが、自宅へ戻る、とか、工場や商店、漁業・農業などの再開は無理と思うので、地域復興が描けず、不安が募る。

・女性の雇用も厳しいので、商工会や個人が始めた仮設住宅を廻る「巡回移動惣菜販売」に加わったが、賞味期限などズサンなので、辞めた。

・高齢者の雇用は殆ど無いが、これまでは、自分の家の庭や畑で、一家の自給自足の担い手、で、「家計を助け」「野菜の成長」を楽しみ、としていた高齢者に、その仕事が無くなり、家でテレビを見続けるほかないの現状。

### （３）暮らし

・日々の暮らしでは、まず、食料品でも、これまで「自給自足」で、お金を出して買うことの少なかった「お米」「野菜」に加え、「水」も買うことになり、生活費がかさむ。水は、これまで井戸水、だったので、新たに水道代がかかるだけでなく、その水道の水も、山水のようで、洗面器に溜めると白濁し、飲むと味もし、気味が悪いので、内部被爆を避ける為、生活用水以外の食用・飲料用のミネラルウオーターは、別途、買うしかない。

・また、ようやく夫婦で働き詰めで、ようやく最近建てた新築の家にも、戻れず、徐々に朽ちていくのが耐えられない。ローン返済もそのまま残り、職場のスーパーも津波で流され、職も失う、など、支出ばかり増え、収入のアテが立たない。

・ここの近くには、「地元スーパー」一軒しかなく、「高い」ので、８km 先の大手スーパーまで、車でまとめ買いに行かざるを得ない。「移動販売車」は、本当は助かるのだが。

## （４）支援

・支援には感謝しているが、被災者のモラルも様々で、配分なので「取りすぎ」で、揉めることもある一方、仮設以外のアパートや親戚などでの被災者には行き渡らないので、個人的な友人・知人には、仮設に配られた支援物資を、他人の分も確保する人もおり、配布の運営は難しい。

・小学生から高校生までの寺子屋式の補習授業をボランティアがやってくれ、有難い。

・以上から、今後の支援については、心のケアに役立つ、音楽・演芸イベントや、「食品（お米・味噌・新鮮な野菜・即席麺、レトルト食品など）」「日用消耗品（シャンプー・ボディシャンプー・洗濯・食器洗剤・トイレットペーパーなど）、そして、「水」が有難い。

## １５時　　福島県南相馬市　寺内塚合　仮設住宅　訪問

上記長沼仮設住宅から車で５分。１７４世帯。自治会長、と役員２名からヒアリング。

## （１）仮設住宅の現状

・これまで、東電からの資金援助の無かった小高区の避難者。ほとんどの人は、２～3 日で帰れるつもりで、取りあえず、取る物も取りあえず、原発から逃げたが、結局、今日まで、白装束で２回程度、帰宅できただけで、放射能汚染で衣類や家電も持ち出せず、悔しい思いをしている。小高の人は、勤務先は、東電関連もいるが、町としてお金をもらってきた訳でなく、戻れる希望も無く、怒っている。

・若い人、子供たちは、放射能問題や親との同居には狭く、仮設住宅には少なく、高齢者が多い。近くの地元スーパーがあり、また「巡回販売車」も来るので、買い物は、出来る。ただ、隣の長沼などの仮設住宅と比べ、戸口に、「掃出し口」が無く、かつて、縁側に座り、談笑したようなお喋りが出来ず、外から見て、人の気配など、中の様子も見えず、不便。

## （２）雇用

・人口７万だった南相馬市は、被災直後１万５千人、となり、ようやく現在４万人。
仕事は、これから本格化する除染作業の要員が必要となるので、当面は、若い人には、あるだろうが、避難し、放置してきた商店や工場の再開、は絶望的で、見通しが暗く、若い

人は、どんどん県外などに流出してしまっている。

・これまで、家計の一部を支えてきた高齢者の家庭菜園などでの野菜づくりは、放射能を恐れ、自分でも食べないし、他の人にもあげられない。かといって、ハローワークでも求人は無く、家でじっとしているほかない。

### （３）暮らし

・鹿島小学校の中に小高小学校が同居。仮設住宅では、線量計２台が市から支給され、会長と副会長が持っていて、仮設住宅の敷地内を計測している。
米や野菜は、会津・喜多方産のものなら、まだ安心、と車で買出しに行ってくる人もいる。

・これまで、３ 世帯同居、も当たり前だったが、避難し、仮設住宅も狭いので、親は親戚などへ別居したり、また、近所同士のコミュニティもバラバラになっている。

### （４）支援

・支援を頂くことは感謝に絶えない。仮設住宅は４畳半２間、では狭過ぎて、物が溢れ、衣料品などは、もう納められないので、結構。ただ、収入の目途が無い人が多く、食料品や日用消耗品はお金を出して買うほかなく、助かる。

・これまでも、餅つき大会などのイベントで、普段、表に出てこない人たちも交流が出来るので、集会場で５０人程度は入れるので、音楽演奏など、ぜひお願いしたい。

## １７時半　　福島県相馬市　「ポム・ド・テール」で夕食

ＮＨＫのドキュメントシリーズ番組「２１人の輪」で、取り上げられた相馬市の磯部小学校児童の中で登場、家を津波に流された「モモコ（百子）ちゃん」の両親の店、「ポム・ド・テール」で、名物の「煮込みハンバーグ」を頂きながら、ご両親より、被災から今日までの様々な苦労話を聞く。道路の対面側の市街地は、津波被害で人が住んでおらず、走る車は、この店目当てのみ。

福島県相馬市程田字藪内前３１０　　℡0244-35-1717

## ２２時　　南三陸　ホテル観洋で宿泊

南三陸町の被災者の避難場所でもあった同ホテルには、今も、工事関係者・警察・支援ボランティアなどの宿泊者が多い。昨年の亘理地区「さざんか広場」（支援物資配布バザー）の手伝いをしたメンバーのうち、１０人は宿泊経験。露店風呂から見る太平洋は、壮観。対岸には、津波被災した南三陸町の町並み。

TEL：0226-46-2442（代表）　〒986-0766 宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17

１２日（木）

**８時　ホテル出発　南三陸町市街地へ**

・３回目の訪問だが、市街地は、家を建てることも禁じられ、見渡す限り、基礎土台のみの平野で、海辺には山の様なガレキもそのまま。車の残骸の山だけが、少なくなってきた程度。多くの方が亡くなった志津川病院、防災センターの風景も、いずれ壊されるとか。

**１０時　女川仮設歯科診療所　木村先生（石巻市民オケ事務局）訪問**

・３月２５日（日）石巻市民交響楽団が、震災以降、初の定期演奏会を石巻専修大学アリーナで、企画、団員が不足する弦楽器奏者のエキストラボランティアを、昨年末に募集、首都圏からプロ、アマ１１名の弦楽器奏者が応募したことを受け、事務局Ｋ氏（フルート）や団長（ヴィオラ）とのメールや電話での遠距離コンタクトを続けているので、直接の面談で、短時間ながら、診察中のＫ氏と、課題を短時間で確認。

**１２時　　宮城県田尻　ボランティア　Sa 氏　訪問**

昨年１１月、最後の亘理地区「さざんか広場」で、現地ボランティアから紹介された、宮城県大崎市田尻在住（内陸部の東北本線田尻駅近く）のボランティア、Ｓさんを自宅に訪問。

・実家は、農家兼酒屋だったが、地震被害で、店は半壊し、支援物資置き場になり、小売り断念。昭和 25 年生まれ。3か所の学習塾で、中高生に英語を教えながら、「古代米普及」の組合で、50 人の農家とも農業の活性化の支援をしている。これまでも、学習塾組織のつながりで、全国からの支援物資を受けるだけでなく、被災地での児童の学習支援や、被災した塾からの要請を受け、地域の仲間２０人ほどで、今後、３年間は、継続して、気仙沼・南三陸町・女川・石巻などのリアス式海岸沿いの各地を支援する。

・特に、今後は、仮設住宅への支援を通じ、仮設住宅に入居していない、支援の行き届かないでいるアパート暮らしなどの被災者へ、仮設の被災者からロコミで呼びかけてもらい、今後は、20 世帯程度の小規模で、海岸線近くの高台の仮設住宅への巡回物資支援をメインとしたい。また、震災当初、１週間孤立した、気仙沼大島への支援も打ち合わせ中。

## １２時半　宮城県登米市　農家　Se 氏　訪問

Sa さんに先導され、車で１０分の登米市米山町の農家、Se さん宅を訪問。

昨年末、Sa さんより「南三陸町最大の仮設住宅に１月下旬に支援物資を届ける。特に、精米前の３０㎏の大袋が全日農より大量に送られてきたが、３５０世帯に５㎏づつ配るには、不足している。出来れば、それを助けて欲しい。」との依頼を受け、首都圏で購入し、車や宅配便で運ぶのは、コストもかかり、被災地へ金も落ちないことから、「地産地消」で、Sa さんより、現地農家、Se さんを紹介され、年末、「お米募金」を呼びかけ、１０日までに集まった募金１７万円を現金で持参、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」を５㎏２０００円、で購入。

なお、Se さんも Sa さんと同年代、で、澤口さんとともに、古代米の生産など、農業の自立、活性化へ様々な試みをしており、今回訪問時には、レタス、ネギの出荷作業とともに、「フランスネギ」を箱詰めしており、仙台や築地を通じた高級ホテル（メトロポリタンやオークラなど）のフランス料理の高級食材であることの説明を受けた。

## １３時　　宮城県登米市　イオン南方店跡地　応急仮設住宅　訪問

Se 宅から、車で１０分の登米市市街地近辺にある仮設住宅。南三陸町からの被災者収容仮設では、最大、３５０世帯の仮設住宅。１月２９日に、Sa 氏と仲間のボランティアで「お米（結局、１世帯４Kg）」「日用消耗品」の配布をする先。自治会長と、Sa、Se 氏とともに挨拶。

話の最中も、地震の揺れを感じるが、元々名前通り、スーパーイオンがあった場所で、地盤が軟らかく、たびたびスプリンクラーが稼働するなどから、近くに移転、空き地だったところ。

### （１）仮設住宅の現状

・ここの仮設住宅は、トヨタホームとセキスイの２つ、だが、仕様が異なり、自治会として、冬場の雪・寒さ対策で、入り口付近の覆い設置を行政にお願いしたら、上り口の３段ほどの階段までカバーしてくれた方と、くれない方の二通り、となり、改善要望したが、個別対応は無理、と行政から断られた。

## （２）雇用

・（有償の仕事ではないが）各地で被災者として、「被災体験」を話して欲しい、と要望が良くあるが、「津波」の話も大切だが、全国からの暖かな支援に励まされたことが今は大事。

・ハローワークは毎日くる。しかし、雇用保険も切れかかり、現在は、冬場対策で、道路への融雪剤の散布や、仮設住宅での要望する補修などの短期臨時雇用ばかり。

・宮城県は、これまでも、仙台一極集中で、ほかの地域には、他県からの事業所や工場の進出が少なかったが、震災後も、撤収・廃業する工場ばかり。宮城県は、トヨタ進出へ、道路まで作り、厚遇誘致したが、それも、仙台市近郊だけで、三陸海岸への雇用支援は無い。ぜひ、「雇用支援」で、国や県が誘致して欲しい。

## （３）暮らし

・南三陸町、といっても、350 世帯は、一様では無い。まず、５月に建設された 200 世帯と、８月に最後に建設された 150 世帯の、２つのゾーンに分かれている。それに、自分も、南三陸町近辺の仮設住宅を希望し、抽選で何度も落ち、最後になって、町からは遠い（車で一時間の内陸部）ここに入ったが、今になると、「落ちて良かった」。

最初に、町近くの山の上に出来た小規模仮設に入った人たちは、町は壊滅し、スーパー・コンビニ・銀行・郵便局などがある訳でもなく、陸の孤島、で、支援の手もなかなか行き届かず、苦労している。それに比べれば、ここは、最大規模、で注目度も高く、街中で、すぐそばにもコンビニ・スーパーもあり、わざわざ海岸近くの仮設から車で買いに来るぐらいで、利便性が良い。ただ、郵便ポストがコンビニまで行かなくてはならず、自治会の要望として郵便局に仮設内へのポスト増設を要請したが、結局、断られた。

・緊急避難で転々とし、狭い仮設住宅で勉強机も無く、児童の学力が目立つ。

・これまで、被災 3 県の医療費は、無料だったのが、3 割負担に戻る、というニュースが流れたが、病院通いの被災者には、大きな負担増だ。

## （４）支援

・震災から１０か月。これまでの物資支援は有難かったが、一部で、「貰って当たり前」と、自立へ向けた力が削がれることにもなっていると思う。物資をドンと送って来ても、それを小分けし、配分するための人手が無いと、自治会メンバーが大変で、さらに、配分を巡る被災者同士のトラブル、不協和音が出て、会長の立場では、「自治会の運営上、迷惑」である場合も多い。やるなら、きめ細かく、自治会や被災者のロードや配分の公平性なども確保してもらうことが必要。

・無料配布で、「とりあえず」確保した食器などを、結局使わない、と、こっそりゴミ廃棄場へ置かれていたりするのも、（支援頂いた方に申し訳なく）残念だ。

・また、正直、例えば、「お米」は、余るほどあり、３０㎏の大袋がドンと送られてきたり、２㎏の包が、小学校で作った「かるがも有機農法」のお米が配られたり、で、有難いが、ここでは、今は、飽和状態だ。ただ、長続きするかどうか、は分からない。

・それでも、仮設住宅が狭く、室内に押入れや物を置くスペースが限られている中、最近、キリスト教団体からの「ワイドストッカー」３５０世帯全戸配布、は有難かった。戸外に置いて、灯油や野菜などまとめて置いておけて助かった。
・また、正月に向け、手作りの「おせち料理」を全戸分作ってくれたボランティアや、歌の指導で高齢の被災者が歌え、ホットケーキを頂く「ふれあい喫茶」も、好評だった。
・学力低下に対し、東大生数人が毎週、補習授業をやってくれ、これも有難い。
・元楽天副社長が、私財で、南三陸町の高台で、造成中、凍結されたゴルフ場跡地を町に寄付してくれたニュースは、まさに「天からの贈り物」。大変町民は喜んでいる。これは町長が 9000 万の予算で昨秋提案したものの、財政不足と、土地の所有者が複雑で否決されたもので、高台集団移転、が現実化し、嬉しい。
・これからは、精神的な豊かさ、心の支え、笑い等メンタルケアへの支援をお願いしたい。

**１６時　宮城県登米市　道の駅みなみかた「もっこりの里」で土産購入**

近くの外食レストランで遅い昼食後、別れた二人が納品している道の駅へ。Sa さんの「たじり古代稲生産組合」産黒米、Se さんの赤米、と安くて大きい野菜を購入。

**１７時　築館（つきだて）インターから帰還**

これまで毎月通い慣れていた亘理地区から乗る「白石蔵王」インターまでの距離の長いこと。蓮田パーキングで、２回目の給油と遅い夕食。２日間で、１０００km 以上のドライブ。

## 【当時のレポート抜粋―福島県支援者】

支援者各位

２月５日の支援者会議から、早くも３週間が経とう、としています。

そして、その場で、宮城県三陸海岸と、福島県浜通りの被災者への「支援物資送付」をお願いしました。しかし、昨年秋の行政での支援物資受け取り終了が相次いで以降、新聞社などでの「義捐募金」も３月末で終了、など、実際の支援ニーズはむしろ高まっているのもかかわらず、支援疲れ、支援不要ムード高まり、もあって、私たちの支援も、低調です。

### Ⅰ　宮城県への支援物資送付のお願い。

最初の「物資配布」先を３月４日岩手県千厩「気仙沼被災者仮設住宅」と定め、宮城県大崎市のＳさんとその仲間とともに、配布を行うこととしたことをご紹介しました。しかし、残念ながら、昨日の確認では、いまだ澤口さんの自宅への「３１１　有志」からの支援物資は、わずかで、別ルートで保管している支援物資を含めても、当日、大勢で配布するほどの量には至らない、せめて残る２週間で、131 世帯 202 人に対し、全員分とは言わずも、もう少し頂けないか、とのお話がありました。そこで、次のお願い、です。

① 支援物資、宜しくお願いします。ただ、チラシでは、日曜指定、としておりますが、それだと、26 日しかないので、３月３日まで、平日でも構わない、と。曜日指定は結構です。
② ３月４日、５日の現地訪問参加者は、今のところ、６人。但し、配布作業には、これで十分。

亘理のように 30 人でも忙しい、という状況と異なり、物資は多くはなく、さほど手間がいらない、ということです。そこで、これ以上、参加呼びかけをせず、今回は、「心のケア」支援として、集会場で、高齢者向け歌謡曲合唱の伴奏・歌唱指導を行います。

ただ、4 日宿泊は、これまでの南三陸町の「南三陸　ホテル観洋」の姉妹店、「気仙沼　ホテル観洋」へ宿泊、三陸海岸沿いの各地を巡りますので、体感したことのない方はどうぞ。

## Ⅱ　福島への支援手持ち

先週、19（日），20 日（月）、２つの目的で、福島、宮城へ、Ｋさん、Ｓさんと３人で行ってきました。福島県は、２月５日の支援会議でご紹介し、今後の「南相馬市の被災者」支援の窓口となる福島市の「美歌」さんと、お会いする為でした。

**用件①挨拶**―互いにメール、電話だけ、で、初の顔合わせ。早めの昼食を共にしました。笑顔が素敵な女性で、昨年３月末から、一人、いたたまれず、支援活動を始め、ブログやツイッターなどで支援物資送付を呼びかけ、今年になるまで、継続の「経過」や「想い」、プライベートなことまで色々お伺いしました。

**用件②支援物資搬入**―主に、前日 18 日に私が或る大学先輩の 13 回忌に参加した友人たちからの手で運んできた支援物資を、私の車に入れ、そのまま、美歌さんのご自宅へ搬送したものです。（下記、ブログで紹介頂きました。）ただ、「３１１　有志」で、郵送されてきた支援物資は、やはり、少ないので、上記宮城同様、宜しくお願いします。

**用件③お雛様搬送**―３月３日節句を前に、都内目黒の大学の友人の友人から、お雛様セットを寄贈頂き、送り先を相馬市で自宅が流され、仮設暮らしをしているレストラン経営夫婦の小６の娘さん、「モモコ」ちゃん、へ届けて頂くため、美歌さんへリレーを依頼したもの。今週末の 26 日（日）に持参予定です。

## 《参考》美歌さんのブログ

皆さんおばんです。ごみです。間もなく震災から一年になろうとしています。そんな中、支援の申し入れが続いております。お一方は前回の記事で掲載いたしました。そしてそのすぐ後に、東京の方から連絡をいただき、支援の申し入れをしていただきました。そちらの方々は、「3.11 有志」という個人が集まった方々です。そしてそしてその「3.11 有志」の方から、さっそく物資が届きましたので、掲載させていただきたいと思います。

雑貨いろいろです。品名のところに細かく書いてくださったので、そちらをそのまま書きます。
入浴剤（体があたたまりますように）温熱器、靴２足、袋（折りたたみ）、化粧品、ジュースマシン
写真たて（小）体があたたまりますようにと書いてあったのを見て、心があたたまりました。
さらにはお手紙まで入っておりました。こちらは南相馬市の仮設住宅へお届けしたいと思います。
そしてこの「3.11 有志」の方々３名様と、実は日曜日に福島市でお会いしました。そのときにいただいた物資も合わせて掲載させていただきます。宮城へ行く途中に寄っていただき、さらには物資まで置いていっていただき、本当にありがとうございます。

パンは即冷凍しました。パンが好きなお母さんがご近所仮設におりますので、そちらにお届けしたいと思います。果物は日持ちがしないので、こちらもご近所仮設にお届けします。日用品。トイレットペーパーや石鹸は消耗品なので、大変喜ばれると思います。こちらは南相馬市の仮設住宅へお届けします。
マスクです。マスクは必要な方にお渡ししたいと思いますので、聞き取り調査をしながらお渡しします。
オムツなど。こちらは南相馬市の仮設へお届けします。
そして最後に、姉の服を送りたいと、長野県の方からの申し入れです。

洋服です。暖かそうな毛がナイロンに包まれていました。丁寧に送っていただいてありがとうございます。
もうひと箱も、洋服です。こちらも綺麗にたたんであります。両方とも南相馬市の仮設へお届けします。
いつの間にか車いっぱいになりました。次の日曜日お渡ししてきます。
ご近所仮設は明日仕事帰りに行ってまいります。ありがとうございました！！